

科目名	真宗学演習 B					単位	2.0
担当教員	市野 智行						
授業形態	演習	開講期間	通年	配当年次	1	授業番号	5292

●授業のテーマ

『歎異抄』に学ぶ

●到達目標

『歎異抄』を演習形式で学ぶ。『歎異抄』の原文に触れながら、現代を生きる私たち一人ひとりの課題を模索し、深めていくことを目的とする。

●学習内容(授業概要)

『歎異抄』は親鸞滅後、遺弟唯円によって著された書物である。聞き書きの書である。唯円が「耳の底に留まるところ」を書き記した、真宗教義における様々な課題が詰め込まれている。そして『歎異抄』を演習形式で学ぶことによって、その課題を深めながら共有していく。

教えに向き合うということ、善導は「経教は譬うるに鏡の如し」と述べている。『歎異抄』を鏡として、自分自身の姿・人間の存在とはなにか、そういったことを学んでいきたい。

●学習内容(授業計画)

≪前期≫

1. 真宗学とは 「真宗の学び」
2. 『歎異抄』について 「歴史的背景」
3. 『歎異抄』について 誰によって書かれたのか
4. 前序 「自見の覚悟」講義
5. 第一条 「本願」発表と質疑
6. 第一条 発表をふまえた講義
7. 第二条 「念仏」発表と質疑
8. 第二条 発表をふまえた講義
9. 第三条 「往生」発表と質疑
10. 第三条 発表をふまえた講義
11. 第四条 「慈悲」発表と質疑
12. 第四条 発表をふまえた講義
13. 第五条 「回向」発表と質疑
14. 第五条 発表をふまえた講義
15. 前期テスト

≪後期≫

1. 前期を振り返って
2. 第六条 「同朋」発表と質疑
3. 第六条 発表をふまえた講義
4. 第七条 「無碍」発表と質疑
5. 第七条 発表をふまえた講義
6. 第八条 「大行」発表と質疑
7. 第八条 発表をふまえた講義
8. 第九条 「歓喜」発表と質疑
9. 第九条 発表をふまえた講義

10. 第十条 「無義」発表と質疑
11. 第十条 発表をふまえた講義
12. 師訓篇の課題 まとめの講義
13. 後序の課題 講義
14. 『歎異抄』に関する自由発表（全員行うこと）
15. 後期テスト

●準備学習・事後学習の内容

【予習】演習形式のため、次回の授業について予習すること。具体的な方法は授業内にて指示する。【復習】授業内容を踏まえ、あらためて原文を読み直す。

●成績評価方法・基準

授業態度(発表を含む) 5割  
定期試験 5割

●テキスト（必携）

≪No.1.≫書籍名：『歎異抄』、出版社：東本願寺

≪No.2.≫書籍名：『真宗聖典』、出版社：東本願寺

●参考文献／その他

授業時に指定します。

●履修上の注意

相互に学びを深めるため、発表担当の有無に関わらず、積極的な授業参加を望む。